

阪神電車とグループ120年のあゆみ

2025年4月12日(土)、阪神電気鉄道は開業から120年を迎えました。グループ会社とともに、お客さま一人ひとりの“たいせつ”に向き合い歩んできた120年を、懐かしい写真を交えて振り返ります。

第6回 **2005(平成17)年～2025(令和7)年**

ビッグプロジェクトが次々に完成！ 信頼と期待のその先を目指して

待望の阪神なんば線開業

2003年、長らく中断していた西九条～近鉄難波(現・大阪難波)間の西大阪延伸線建設工事を再開。2009年に阪神なんば線が開通し、近畿日本鉄道との相互直通運転を開始しました。沿線活性化の取り組みを開始したのもこの頃。念願のミナミへの乗入れ、

ミッシングリンク解消により、広域的な旅客流動が生まれ、今も利用者が増加しています。

自動車事業は2009年に阪神バスとして完全分社化し、2016年には尼崎市交通局の全路線を譲り受けるなど、阪神間の重要なフィーダー交通として存在感を発揮しています。



阪神なんば線のトンネル入口に掲げられた扁額。「紹復大業」とは、前の時代からの偉大な事業を継承して、この先の世の中を安定、発展させるの意。西大阪高速鉄道(株)本庄義信社長(当時)の揮毫。

夢・感動を届け続ける スポーツ・エンタテインメント事業

「阪神甲子園球場」では、2007年からリニューアル工事を行い、2010年の竣工に合わせて「甲子園歴史館」をオープン。開場100周年を迎えた2024年には、これからも野球の聖地として歴史を紡いでいくことを目指し、銀傘をアルプススタンドまで拡張する構想を固めました。2025年には、ファームチームの練習場や選

手寮などの施設を備え、環境に配慮した「ゼロカーボンベースボールパーク」を尼崎市にオープンし、さらに阪神タイガースが2年ぶりのリーグ優勝を達成しました。

六甲山では、2010年に初開催した現代アートの祭典が年々規模を拡大し、「神戸六甲ミーツ・アート」は秋の恒例イベントとなっています。2021年には、日本最大級のアスレチック施設「六甲山アスレチックパーク GREENIA」を開設したこともあり、なお多くの方が山上を訪れています。

阪神コンテンツリンクでは2006年に「ビルボード」マスターライセンス契約を締結し、様々な分野で音楽事業を開始。また、2024年には、日本文化の奥深さを紹介するインバウンド向けの相撲エンタテインメントショーホール「THE SUMO HALL 日楽座 OSAKA」を開業しました。



ゼロカーボンベースボールパーク

持続可能な社会の実現に向けて

2006年に阪急グループと経営統合したことで、阪神百貨店のあった大阪神ビルを新阪急ビルと一体で建て替える「梅田1丁目1番地計画」が始動。2022年、大阪の玄関口にふさわしい、快適で質の高い街づくりに資する「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」が誕生しました。さらに2024年には大阪梅田駅の改良工事も完

CHECK!



現在、駅構内のポスター・サイネージや「“たいせつ”がギュッと。」ラッピングトレインで、ポスター企画「阪神“たいせつ”ストーリー」を展開中!ぜひチェックしてください。

★「阪神“たいせつ”ストーリー」は阪神電気鉄道Webサイトでもご覧いただけます。

<https://www.hanshin.co.jp/taisetsu/>



了しました。

新規事業の創出にも積極的に取り組んでおり、社内起業支援制度から「登下校 ミマモルメ」や「プログラボ」、「はんしんいきいきデイサービス」などが生まれています。



大阪梅田ツインタワーズ・サウス

1905年に大阪～神戸間で鉄道営業を始めて120年。多彩な事業を展開する阪神グループは、これからもみなさまの「“たいせつ”がギュッと。」つまったモノやコトを生み出し、お届けしていきます。

年 表

2006.10.1	阪急阪神ホールディングス誕生
2009.3.20	阪神なんば線西九条～大阪難波間営業開始
4.1	自動車事業を阪神バスに完全移管し、分社化
2010.3.12	阪神甲子園球場リニュアル工事完了
9.18	「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」初開催
2021.4.3	「六甲山アスレチックパーク GREENIA」開設
2022.2.25	「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」全体竣工
2024.3.16	大阪梅田駅改良工事完了
2025.2.20	尼崎市に「ゼロカーボンベースボールパーク」竣工
4.12	阪神電気鉄道開業120周年